

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標1：市街地における公共交通の利便性の向上

指標・数値目標「公的資金の投入額」



## &lt;達成状況・分析&gt;

- ・2020年と比較し6,092千円負担額が減っている。
- ・歳出額で比較するとICカード導入による使用料等及び2021年からの指定管理料の変更によって増額となっているが、循環バス(右・左・南)の歳入額とその他の歳入(主にフィーダー補助金)が増えており、結果として全体の負担額は減っている。
- ・循環バスの歳入増額要因は、交通系ICカードの導入及び学生への交通系ICカード配布による利用者数の増によるものと考えられる。

## &lt;評価・次年度に向けて課題や取組&gt;

- ・市内循環バス路線の見直しにより、利用促進を図る。
- ・引き続き交通系ICカードの普及に務める。
- ・各種補助金を活用する。

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標1：市街地における公共交通の利便性の向上

指標・数値目標「通学定期券の年間発行枚数(循環バス)」



販売場所		2020年	2022年
循環バス	市役所	5	11
	ASK	31	48
	ナセBA	2	4
	山大	7	12
	西部	0	0
南回り	山交	15	27
計		60	102

## &lt;達成状況・分析&gt;

- ・学生利用の増加によって計画策定時と比較し42枚発行枚数は増えており、目標値を達成している。

## &lt;評価・次年度に向けて課題や取組&gt;

- ・学生に利用しやすい路線への見直しを図ることで引き続き目標値を上回る発行枚数を維持する。

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標1：市街地における公共交通の利便性の向上

指標・数値目標「市街地循環バスの年間利用者数」

計画策定時

116・86千人/年  
(2019・2020年)

今回の評価

116千人/年  
(2022年)

目標値

101千人/年  
(2026年)

路線名		2020年	2022年	比較
市民バス	右回り	34,097	46,836	12,739
	左回り	31,580	43,125	11,545
山交バス	南回り	20,432	26,594	6,162
合計		86,109	116,555	30,446

＜達成状況・分析＞

- ・計画策定時と比較し30千人増加しており、目標値を達成している。
- ・主な増加要因は学生への交通系ICカード配布によるものとする。

＜評価・次年度に向けて課題や取組＞

- ・学生に利用しやすい路線への見直しを図ることで引き続き目標値を上回る利用者数を維持する。

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標2：市内各地域における公共交通の利便性の維持・向上

指標・数値目標「公共交通の年間利用者数」

計画策定時

280・211千人/年  
(2019・2020年)

今回の評価

223千人/年  
(2022年)

目標値

245千人/年  
(2026年)

路線名		2020年	2022年	比較
山交バス	南回り除く	97,583	78,623	△18,960
市民バス	万世線	19,260	21,335	2,075
	右回り	34,097	46,836	12,739
	左回り	31,580	43,125	11,545
山交バス	南回り	20,432	26,594	6,162
乗合タクシー		8,410	7,200	△1,210
合計		211,362	223,713	12,351

＜達成状況・分析＞

- ・2020年と比較し12千人増加している。
- ・主な増加要因は学生循環路線及び万世線の学生利用増による。南回り線を除く山交バス路線は利用者が減少している。

＜評価・次年度に向けて課題や取組＞

- ・循環路線の学生に利用しやすい路線への見直しを図り目標達成を目指す。
- ・利用者が減少している山交バス路線運行地域と公共交通に関する協議を進め、より利便性の高い公共交通を目指す。

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標3: 圏域連携・都市間連携。事業者間連携の維持・活性化

指標・数値目標「広域的な公共交通の年間利用者数（鉄道：米沢駅）」

計画策定時

811.4・未公表 千人/年  
(2019年・2020年)

今回の評価

未公表  
(2022年)

目標値

811.4千人/年  
(2026年)

<参考>

指標としている数値は「山形県の鉄道輸送」における「米沢駅」の乗車人数であり、3年に1度の公表のため、2020年及び2021年は未公表。

JR東日本ホームページでの「各駅の乗車人数」における米沢市は

2020年: 488.7千人

2021年: 538.7千人

<達成状況・分析>

新型コロナウイルス感染症の影響で計画策定時よりも大幅に利用者は減っている。

2020年から2021年にかけて50千人程度の増となっている。

<評価・次年度に向けて課題や取組>

市内循環バス路線の見直しを図り、鉄道との接続性を向上させることで、アフターコロナにおける観光需要での公共交通利用を促進する。

## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標3: 圏域連携・都市間連携。事業者間連携の維持・活性化

指標・数値目標「広域的な公共交通の年間利用者数（高速バス米沢～仙台線）」

計画策定時

68.25 千人/年  
(2019年・2020年)

今回の評価

50千人/年  
(2022年)

目標値

47千人/年  
(2026年)

	高速バス米沢～仙台線利用者数
2019年	68,305
2020年	25,975
2021年	32,355
2022年	50,066

<達成状況・分析>

・2020年と比較し25千人増加しており、目標値を達成しているが2019年と比較すると18千人減少している。

<評価・次年度に向けて課題や取組>

・アフターコロナにおける旅行需要等を取り込むことで、引き続き目標値以上を維持しつつ、2019年の数値を目指し、利用拡大にむけた取組みを進めていく。

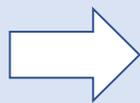
## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標4:公共交通の利用しやすさ・わかりやすさの向上

指標・数値目標「バス待ち環境の改善箇所」

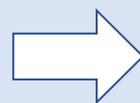
計画策定時

0か所  
(2020年)



今回の評価

2か所  
(2022年)



目標値

5か所  
(2026年)

### <達成状況・分析>

・市役所前バス停の時刻表表示の改善による待合スペースの拡充及び信夫町バス停の設置個所の改善を行った。

### <評価・次年度に向けて課題や取組>

・循環バスの見直しに伴いより利用しやすいバス停の設置個所を選定。  
・コンビニエンスストアやスーパー前にバス停を設置し、バス待ち環境の改善を図るために関係者への協力依頼要請。

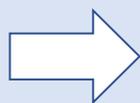
## 基本目標の達成状況の確認

○基本目標5:生活の基盤となる公共交通の持続性の向上

指標・数値目標「地域協働に向けた協議地区数」

計画策定時

0地区  
(2020年)



今回の評価

3地区  
(2022年)



目標値

5地区  
(2026年)

### <達成状況・分析>

・六郷地区、南原地区及び三沢地区と協議を開始し、六郷地区は令和5年4月からのりあいタクシーの実証運行を開始した。その他4地区についてもアドバイザーとの勉強会を行うなど、協議に向けて地域との連携を図っている。

### <評価・次年度に向けて課題や取組>

・勉強会等次の段階へと進めていない地域があるので、引き続き生活の基盤となる公共交通の導入について、地区と協力しながら進めていく。